

# 鹿大ジャーナル

KADAI JOURNAL

<http://www.kagoshima-u.ac.jp/>

鹿大「知」の探検

重度重複障害児や学習障害児の支援に取り組む

教育学部障害児教育専修 雲井 未欽准教授

アラムナイ追跡隊

かごしま探検の会代表理事 東川 隆太郎さん

輝く 鹿大生

寺田 菜々海さん 法文学部人文学科3年

鹿大見てある紀

埋蔵文化財調査室

鹿大への提言

放送大学鹿児島学習センター所長 竹田 靖史氏

なんでも情報版「みみずく」

皆既日食観測航海を実施 ほか

かごしま探訪

「桜島火山・南岳の最近の噴火活動」

理工学研究科 小林 哲夫教授

創立60周年記念特集

「進取の気風」を  
引き継ぐ  
鹿児島大学

～鹿大のルーツを探り 未来を展望する～



# 「進取の気風」を引き継ぐ鹿兒島大学

鹿大のルーツを探り  
未来を展望する

1949(昭和24)年の学制改革により、鹿兒島大学が誕生してから60年。鹿大は大学憲章において「進取の気風」にあふれる学生を育成するという姿勢を明確にしてきた。その60年間の歴史の中で教育・研究・社会貢献の分野において、斬新で果敢な取り組みを数多く進めている。今回の特集では鹿大の60年の歴史とともに、鹿大の源流といえる藩学「造士館」や「医学院」、また、新制大学・鹿大の前身となった「第七高等学校造士館」、鹿兒島県内の高等教育機関にさかのぼって鹿大の「進取の気風」の源流を見つめ直し、未来へ向けての新たな指針を探る。

## 第1部

# 造士館に遡る236年の歴史

「進取の気性」旺盛な  
重豪が創設した  
藩学造士館

鹿大の起源は、江戸時代に島津

家25代島津重豪、8代藩主が創始

した藩学「造士館」にさかのぼる。

重豪は、蘭癖といわれるほど西洋

の文化に強い関心を示し、中国語も

堪能で、英邁闊達にして進取の気

性も旺盛(島津修久、島津歴代略

記)であった。暦学の研究や天体観

測を行う明時館(天文館)の創設や、

農学百科全書『成形図説』をはじめ

とする各種書籍の編纂・出版とい

った文化事業にも積極的で、薩摩藩

における文化発展の礎を築いた。

1773(安永2)年、重豪は教育



や名所をまとめた全60巻の文書。



島津斉彬銀板写真(尚古集成館蔵)



島津重豪像  
(鹿兒島県歴史資料センター黎明館寄託  
玉里島津家蔵)





七高造士館全景  
(鹿児島大学中央図書館蔵  
『七高出てから三十年』より転載)

を通じて藩に有益な人材を育てることを目的に、文武修養のための聖堂と武芸稽古場を創設した。江戸の昌平黌をモデルにした大規模なもので、これらは現在の鹿児島市中央公園あたりにあつたとされる。

1786(天明6)年には聖堂を、造士館、武芸稽古場を、演武館」と改名。講義は儒学を中心とし、組頭や城下士、外城士が聴講したほか、学問の志があれば家来や町人、城下士の子どもなど



『三国名勝図絵』は、島津家27代島津斉興(10代藩主)が編纂を命じ、薩摩藩領内の地誌

も末席か別室での聴講が許された。

### 斉彬の造士館改革 が生んだ 明治維新の原動力

重豪を曾祖父にもつ島津家28代島津斉彬 11代藩主は重豪の影響を強く受けたとされる。和漢の学問に加えて洋学も良く学び、当代一流の蘭学者と積極的に交流した。世界情勢を見据え、日本の国力向上を目指した斉彬は、藩主となつてすぐに造士館の改革に着手する。1857(安政4)年の「造士館学風矯正之御親書」で、「修身齐家治国平天下」(身を修めて家庭をととの



第七高等学校造士館跡

え、国を治めて後、天下を平和に導くことができる)の道理を研究し、時局に対応でき、国の役に立つ人材の育成を理想に掲げた。さらに、和漢の書物だけでなく西洋の諸書を熟読し、国際情勢に対応できる実学の必要性を強調。藩内だけでは、井の中の蛙」になるとして、盛んに藩外へ遊学させた。これが後の薩摩藩英国留学生派遣につながるのである。幕末の動乱期においては、造士館出身の人物が多数活躍したことが知られており、西郷隆盛や大久保利通といった明治維新の立役者も造士館で学んだといわれている。造士館の教育は、日本の近代化の礎も築いたといえよう。

### 「造士館再興」の名の下に誕生した 第七高等学校造士館

藩学造士館は1871(明治4)年に廃校となり、造士館の名を持つ学校は消えた。1884(明治17)年、西南戦争を経て有望な若者を数多く失った鹿児島島の現状を憂えた旧薩摩藩主公爵島津忠義が教育機関の設置を求めて多額の寄附を行った。これにより翌年3月、県立中学造士館が設置された。その後、度重なる学制の変更に翻

弄されながらも、1901(明治34)年には、第七高等学校造士館」が設置され「造士館」の名を冠した地方の最高学府が誕生した。公爵島津忠重が政府の高等学校増設計画を知り、基金や建物・図書等を寄附したことがきっかけだった。藩校の流れを汲み、その館号まで受け継いだ旧制高校は全国でも七高ただ二校。校舎は島津77万石の本城であった鶴丸城址(現鹿児島県歴史資料センター黎明館)に建てられ、学校に係る経費は1905(明治38)年まで島津家の寄附金によって賄われた『第七高等学校造士館開校九十五年記念誌』。七高は島津家の造士館再興の願いと造士館の建学の精神を受け継いだ学校だったのである。



column

# 歌い継がれた 紀年祭歌 北辰斜に」

七高では毎年10月25日に開校記念祭が行われ、年ごとに紀年祭歌がつけられてきた。中でも七高生に愛され、歌い継がれてきた歌と言えば、大正四年十月開校第十四回紀年祭歌「北辰斜に」(築田勝三郎作詞、須川政太郎作曲)が真っ先に挙げられる。「北辰」とは北極星を指す。鹿児島市から北天の仰角31度36分の位置に見えることから「北辰斜」は七高が北極星が低く斜めに見えるほど南の場所にあることを意味する。作詞者の築田勝三郎は、1912(大正元)年に七高第二部甲類に入学したが病を得て退学、夭折した。

今でも「北辰斜に」は鹿大の卒業式や入学式などで合唱団によって歌われている。また、七高を舞台にした映画「北辰斜にさすところ」では、七高生がステージをしながらこの歌を高歌する場面を観ることができる。



大正四年十月開校第十四回紀年祭歌「北辰斜に」歌碑と七高生久遠の像(黎明館敷地内)



数学の授業風景(鹿児島大学中央図書館蔵『七高一わがふるさと』より転載)



七高寮生日誌(鹿児島県歴史資料センター黎明館蔵)

昭和17年度第三学期のもの。卒業間際的心境が綴られている



七高生のレポート(鹿児島県歴史資料センター黎明館蔵)

「海国兵談」西洋紀聞について書かれている

# 鹿児島大学の 成り立ち

## 法文学部・理学部

島津家の寄附によつて誕生した第七高等学校造士館は、法文学部・理学部の前身である。帝国大学の予備教育を目的とし、選抜されたエリートが進む地方の最高学府であり、合格率は1%ほどだった。七高生は地域の人々から尊敬の念を持って「七高さん」と呼ばれ、親しまれていた。1年次には寮に入ることが決められており、先輩や後輩、寮同士で切磋琢磨しながら勉学に励み、夜は寮生同士で議論を闘わせた。寮生活は人

間形成の場でもあった。そうした環境の七高からは20世紀に活躍する人物が輩出された。外務大臣を務めた東郷茂徳は七高一期生で文系のトップであった。他にも政財界、法曹界、文化関係者などのさまざまな分野で日本の戦中・戦後をリードした人物に七高出身・在籍者が数多く見られる。七高は1949(昭和24)年に鹿児島大学文理学部(後の法文学部と理学部)となり、1950(昭和25)年にその幕を下ろした。その50年の歴史は激動の20世紀の歴史と重なる。

間形成の場でもあった。

そうした環境の七高からは20世紀に活躍する人物が輩出された。

## 医学部

80歳を超えて長崎・出島のオランダ商館医シールホルトと会談を行ったことももある島津重豪は1774(安永3)年、医学部を創設した。この医学院が現在の医学部の源流である。



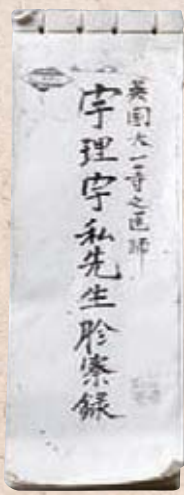
医学院跡(鹿児島市照国町)

明治時代になると、「医学校」が設立され、英国人が校長を務めた。それが英国公使館付きの医官ウィリアム・ウイリスであった。ウイリスは生麦事件や鳥羽伏見の戦いにおいて敵味方の区別なく負傷兵を治療するというヒューマニズムを発揮。また、薩摩藩の医師たちへの指導などを通じて、薩摩藩の信頼を得ていた。そのウイリスの英国医学の知見を鹿児島島の医学の発展に役立ててもらいたいと考えた西郷隆盛や大山巖らがウイリスの招聘に動き、1870(明治3)年、

ウイリスを校長とした医学部が設立された。これが医学部の前身となる。医学部において、ウイリスは臨床を重視した医学教育を確立した。教育の傍ら多数の往診をこなし、貧窮者には無料で治療を施した。また、鹿児島地域の医療や公衆衛生の改善にも積極的に関わった。ウイリスの下では「ビタミンの父」高木兼寛ら俊英が当時の最新医学を修得し、日本の医学界を担う医師が数多く育った。その後鹿児島医学専門学校、鹿児島県立大学医学部などを経て、1955(昭和30)年の国立移管により、鹿児島大学医学部が誕生した。



ウィリアム・ウイリス(鹿児島県歴史資料センター黎明館蔵)



診察録(鹿児島県歴史資料センター黎明館蔵)ウイリスの診察録と思われるものの写し。患者名と処方した薬が書かれている





## 教育学部

教育学部の前身は鹿兒島師範学校と鹿兒島青年師範学校である。さらにその源流をたどれば、1875(明治8)年に設置された小学校授業講習所や小学校正則講習所にまでさかのぼる。これらの学校が時代とともに改称変遷を重ねながら、鹿兒島県の教員養成機関として多数の教育人を世に送り出した。

1943(昭和18)年には鹿兒島師範学校が、翌年には鹿兒島青年師範学校が誕生した。女性として初めて帝国大学入学を果たし、日本初の女性農学博士となった丹下梅子は師範学校の卒業生である。1949(昭和24)年、師範学校と青年師範学校が鹿兒島大学教育学部となった。



鹿兒島師範学校(鹿兒島市武町)

## 工学部

工学部の前身は1945(昭和20)年に設置された鹿兒島県立工業専門学校である。1943(昭和18)年の県議会において工專設置の動議が出されたことをきっかけに、岩崎産業(株)社長の岩崎與八郎氏の寄附があり、設置が実現。全国からの志願者は6千名に上った。戦災による教室の焼失などもあり開校当初は苦勞が絶えなかったが、1948(昭和23)年に初めての卒業生225人を送り出した。同校は翌年、新制大学として鹿兒島県立大学工学部へと生まれ変わった後、1955(昭和30)年の国立移管により鹿兒島大学工学部となった。



工專時代の化学工業科実験室(昭和22年頃)

## 水産学部

水産学部の前身は鹿兒島水産専門学校であるが、その源流をたどると1908(明治41)年、鹿兒島市山下町に設置された鹿兒島県立商船学校に行き当たる。同校は改称や国立移管を経て1946(昭和21)年に廃校となり、代わりに同年、全国で2番目の水産専門学校として国立鹿兒島水産専門学校が設置された。日本再建への希望をもち、先生と学生が同行者としてともに学ぶという雰囲気であった」といふ「鹿兒島大學水産學部五十周年記念誌」。同校は1949(昭和24)年、鹿兒島大学水産学部となった。



鹿兒島水産専門学校

## 農学部

農学部の前身は1908(明治41)年設置の鹿兒島高等農林学校(以下、鹿高農)である。

鹿高農は日本最初の農業教育機関であった盛岡高等農林学校に次ぎ、全国で2番目に設置された。鹿兒島は日本の南端にあつて暖地なので熱帯方面の植物の栽培、研究を目的(「牧野伸顯 回顧録」下)としていた。

初代校長には、盛岡高農の初代校長・玉利喜造が招聘された。玉利は鹿兒島出身で、日本の農学博士第1号となった人物。日本の農学の始祖の一人といわれ、農学者として初めての勲任貴族院議員にもなった。

鹿高農では実行力のある人物の育成を目指し、実験・実習に重きを置いた。そのため、教室だけでなく農場を教養の



鹿兒島高等農林学校講堂



玉利喜造像(朝倉文夫制作)。  
台座には第二次世界大戦時の弾痕が残る



授業風景



鹿兒島大学総合研究博物館常設展示室は鹿高農の図書館書庫として昭和3(1928)年に建設。当時の建物として現在まで残る唯一の建物で国の登録有形文化財に登録されている

場所として位置づけ、理論家だけでなく、農林業を本当に理解し、実際に体験した実践家をつくる「教育を行つた」玉利喜造先生伝)。

鹿高農はその後、鹿兒島農林専門学校と改称し、1949(昭和24)年に鹿兒島大学農学部が誕生した。鹿兒島高等農林学校の広大な敷地は、現在の郡元キャンパスとなっている。



第2部

# 新制大学・鹿児島大学の誕生と発展

鹿大の開学から法人化前までの歴史を追う

1949 昭和24年、戦後の学制改革によって県下5校の高等教育機関が包括され、新制大学・鹿児島大学が誕生した。開学から2004年、平成16年の国立大学法人化前までの鹿大55年の発展の歴史を追った。



<南日本新聞 昭和24年7月15日>

1949年 昭和24年5月)

新制国立大学 鹿児島大学誕生

第七高等学校、鹿児島師範学校、鹿児島青年師範学校、鹿児島農林専門学校、鹿児島水産専門学校の5つの官立高専校を母体に新制国立大学として全国79校の4年制大学のひとつとして設置された。

また、設立にあたって要する臨時施設費1億3,792万円を4カ年計画で負担することとなり、戦後の混乱期でありながら、県費および市町村の拠出、県内外財界・一般と本学職員の寄附金をもって充当した。

1955年 昭和30年)

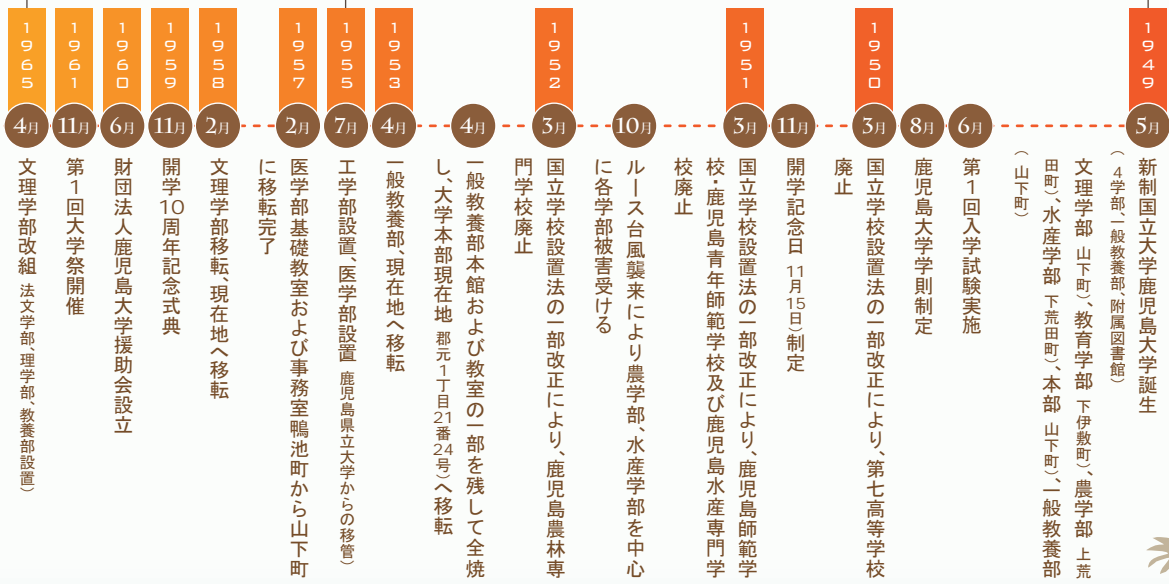
待望の医学部 工学部設置

1948年1月、国立鹿児島総合大学設立準備委員会の発足時から、県立医科大学および工業専門学校(1949年6月:鹿児島県立大学医学部・工学部)も同時に移管されることが要望されていたが、実現しなかった。その後も移管に対する運動は継続して行われ、1953年8月から文部省への折衝が本格化、文部省は1954年度から国立移管に向けての予算を大蔵省に要求することを省議決定するに至り、1955年7月国立学校設置法の一部改正により、医学部と工学部の設置が確定した。

1965年 昭和40年)

文理学部改組、法文学部 理学部設置

ベビーブームによる受験生急増を受け、1963年文部省は総合大学に各学部共通の一般教育を行う教養部を置く方針に急転。文理学部は、全国に先駆けて1965年4月文理改組を実現、法文学部(法学科、経済学科、文学科)、理学部(数学科、物理学科、化学科、地学科、共通学科(生物))、教養部としてスタートした。



▲1994年 平成6年10月)稲盛和夫京セラ株)名誉会長の寄附により稲盛会館竣工。日本を代表する建築家 安藤忠雄氏の設計



▲1994年 平成6年1月)~キャンパスのアメニティ向上へ環境整備 「憩いの広場」を設置(写真左) 「北辰通り」をインターロッキング化(写真右)

## 1997年 平成9年3月31日)

### 教養部の廃止

1992年7月「大学設置基準の一部を改正する省令」いわゆる「設置基準の大綱化」が施行された。この「設置基準の大綱化」を機に大学改革が本格化し、4年(または6年)一貫教育をめざすカリキュラムの実施や教養部の廃止を核とした、全学部にもわたる改組が行われた。4年間にもわたる重苦しい審議の結果、1997年3月31日をもって教養部が廃止され、翌4月1日に共通教育委員会が発足し、新しい教育体制がスタートした。なお、2003年10月には教育センターを設置、体制が引き継がれた。

## 1999年 平成11年11月)

### 学章の制定

創立50周年を記念して学章を制定するにあたり、公募による494点の中から最優秀賞作品として選ばれたのが現在の学章。鹿大のアルファベットの頭文字の「K」を、飛翔する「鳳(おとり)」の形にデザインし、輝く鹿大のキャンパスを巣立つ卒業生が世界の舞台を翔ようとしている姿をシンボル化したものである。



## 1974年 昭和49年)

### 医学部 附属病院 桜ヶ丘へ移転

医学部入学定員の急増、それに伴う施設拡充のためには、山下町キャンパスは狭隘となったため、医学部及び附属病院は、宇宿町(現桜ヶ丘8丁目)へ新築移転され、1974年9月より教育、研究、診療、全ての活動が開始された。

## 1977年 昭和52年)

### 歯学部設置

医学部には当初から歯科口腔外科学講座があったが、1972年、鹿児島・宮崎・沖縄3県の歯科医師会を中心に「鹿児島大学歯学部設置期成同盟会」が結成されて歯学部設置の運動が本格化。歯学部は1977年10月1日開学部、翌78年、志願者1350名、受験者812名の中から80名の合格者を決定、第1回の学生を受け入れた。

## 1968年~71年 昭和43年~46年)

### 鹿大の大学紛争~本部封鎖 機動隊導入~

60年代末から70年代はじめにかけて全国で繰り広げられた大学紛争。鹿大でも68年5月の旧文理校舎の取り壊し問題を契機に始まる。69年9月には大学法への適用拒否の具体化と学生会館(現学生会館)の管理を巡って大学側と対立した全学共闘会議(全共闘)が本部封鎖(2カ月にわたる)。翌年2月には、大食堂の開設等を巡り全共闘の学生が中村末男学長代行の自宅に押しかけ学生会館に軟禁、ついに初の機動隊導入により学長代行を解放。その後全共闘が3ヶ月のバリケードストライキに入るなど、数回にわたって機動隊による事態打開が図られた。



<写真:南日本新聞社提供>



<写真:南日本新聞社提供>



▲2003年 平成15年3月)鹿児島大学広報誌「鹿大ジャーナル」創刊「鹿大広報」から名前を変え新しく生まれ変わった



▲1996年 平成8年12月)新中央図書館竣工。今年5月には1階アトリウムをギャラリーとして整備し、11月には歴史展示室も併設



## 第3部

# 法人化後の動き

進化する鹿児島大学

2004(平成16)年の国立大学法人化を機に、鹿児島大学では教育や研究、社会貢献の分野において数多くの新しい取り組みを進めてきた。法人化後の「進取の気風」にあふれる取り組みを紹介する。

### 教育面でのさまざまな取り組み

#### ◆海外での教育プログラム

現在、海外を舞台にした学生の研修プログラムが行われている。「シリコンバレーセミナー」は大学院生が米シリコンバレーで約1週間、ビジネスやハイテク産業、異文化について学ぶ。帰国後の学生生活や研究活動に熱意をもって取り組む人材の育成を目指している。共通教育科目「国際協力農業体験講座」はタイもしくはマニラで10日間、国際協力を従事する日本人や現地の人々との交流、農作業体験などを体験。国際協力の現場を肌で感じ、真の国際協力の意味を理解することを目的としている。



シリコンバレーセミナー



タイでの花の株分け作業 国際協力農業体験講座

#### ◆続く「GP」への採択

法人化以後、質の高い教育を目指す鹿大の取り組みが評価されている。主なものとして水産学部の「ISOを活用した教育システムの展開」が「特色ある大学教育支援プログラム」(現代GP)に、法文学部の「地域マスコミと連携した総合的キャリア教育」が「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)に、教育センターの「鹿児島の中に世界をみる教養科目群の構築」が「特色ある大学教育支援プログラム」(現代GP)に、鹿大ほか県内12大学等が参加する「鹿児島はひとつのキャンパス」が「戦略的連携支援事業」(現代GP)に採択された。GPは「Good Practice」=「優れた取組」の意味で、全国の大学から文科省が「優れた取組」を選び、支援するものである。



「マスコミ論」の新聞社見学 現代GP

#### ◆離島へき地医療人育成センターの設置

2007年4月に設置された同センターでは、2007年度～2011年度までの5年間、文科省からの支援を受け、鹿大の離島・へき地での医療実習のノウハウを活かし、離島へき地医療に貢献する人材を育成している。全国の医学部生・大学院生、現役の医師が対象で、各々のニーズに合わせた研修プログラムを提供している。



屋久島での離島へき地医療セミナー

#### 北米教育研究センターの設置

2008年9月に設置された同センターは最先端科学技術のメッカとされる米国サンフランシスコ・ベイエリア地区にあり、鹿大の北米地域における教育・研究・社会貢献活動を推進する役割を担う。センター長はベイエリア地区にあるピクセラ・コーポレーションの経営者で、工学部OBでもある井手祐二氏。「シリコンバレーセミナー」や「日米未来フォーラム」「国際技術移転フォーラム」などを実施。今後も新たな取り組み計画しており、鹿大の国際活動の拠点としてますます重要な存在となっている。



北米教育研究センターオフィスがあるピクセラ社

#### 専門職大学院の設置

～法科大学院と臨床心理学研究科の新設～

法科大学院(大学院司法政策研究科法曹実務専攻)は、法曹養成のための教育を行う専門職大学院として2004年4月に開講した。司法の在り方を構想・実現できる活動的な法曹を養成すること、地域社会における法の役割の拡大に対応することを目的としている。

2007年4月に設置された大学院臨床心理学研究科は、わが国初の学部を基礎としない臨床心理士養成のための大学院(独立研究科)であり、専門職大学院である。複雑かつ多岐にわたる国民のこころの問題に即応できる、高度な臨床心理士の養成を目指している。



箱庭療法の指導



模擬裁判の様子



## 2004年(平成16年)

- 4月 ●国立大学法人鹿児島大学設置
- 法科大学院設置
- 就職支援室設置
- 奄美サテライト教室開設
- 5月 ●総合研究博物館常設展示室完成
- 12月 ●東京リエゾンオフィス設置

## 2005年(平成17年)

- 4月 ●法学部に鹿児島大学初の女性学部長が就任
- 稲盛経営技術アカデミー設置  
(2008年4月改組 稲盛アカデミー)
- 7月 ●「ISOを活用した教育システムの展開  
—ユニバーサルアクセス時代への展望—」  
(水産学部)が特色GPに採択
- 10月 ●国際戦略本部設置
- 12月 ●大学ブランド焼酎「春秋謳歌」、  
「きばいやんせ」を発売

## 2006年(平成18年)

- 4月 ●産学官連携推進機構設置
- 寄附講座「焼酎学講座」設置
- 水産学部にフィリピン大学ピサヤス校  
リエゾンオフィス設置
- 7月 ●「地域マスコミと連携した総合的キャリア教育  
—『地方の視点』から問題発見・解決と提言を  
行う人材の育成—」(法学部)が現代GPに採択
- 8月 ●「鹿児島の中に世界をみる教養科目群の構築」  
(教育センター)が特色GPに採択
- 11月 ●かごしまルネッサンスアカデミー開講  
(文部科学省科学技術振興調整費採択事業)
- シニア短期留学開講

## 2007年(平成19年)

- 4月 ●大学院臨床心理学研究科設置
- 医歯学総合研究科に  
離島へき地医療人育成センター設置
- インフォメーションセンター開設
- 5月 ●スタートダッシュ学資金創設
- 7月 ●焼酎学講座研究棟「北辰蔵」開設
- 11月 ●大学憲章制定

## 2008年(平成20年)

- 2月 ●大学ブランド焼酎「天翔宙」を発売
- 7月 ●ボランティア支援センター設置
- 9月 ●「鹿児島の中に世界をみる教養科目群の構築」  
(教育センター)が戦略GPに採択
- 北米教育研究センター設置
- 10月 ●「環境学プロジェクト」開始

## 2009年(平成21年)

- 6月 ●医学部・歯学部附属病院新中央診療棟完成
- 11月 ●創立60周年記念式典

## 焼酎学講座を設置

2006年4月に設置された焼酎学講座は、県内酒造メーカーと鹿児島県酒造組合連合会(現・鹿児島県酒造組合)が4億5千万円、鹿児島県が5千万円を寄附した5年間の寄附講座。500年にも及ぶ鹿児島の焼酎の歴史や文化、技術を「焼酎学」として体系化し、焼酎文化と技術の伝統者、新技術開発のできる人材を育成することを目的とした、日本で唯一の焼酎の教育・研究拠点である。

教員には焼酎業界や研究機関などから、焼酎製造や醸造・発酵微生物学の専門家を迎えた。研究棟「北辰蔵」は麹室や発酵室、蒸留機、実験室、研究室を備え、大学で焼酎づくりの基礎を学ぶことができる。学生たちは「焼酎製造学」と「醸造微生物学」の2つの研究室に分かれ、研究課題に取り組んでいる。2008年度には初めての卒業生8名を送り出し、うち5名は県内酒造メーカーに就職、残る3名は大学院へ進学して研究を続けている。



焼酎学講座の研究棟 北辰蔵



焼酎製造実習に取り組む学生たち

### ◆大学ブランド 商品の開発

法人化以降、鹿大ブランドの商品が次々と開発・販売された。



ルネッサンスアカデミーのプロジェクト 発表会

### ◆かごしまルネッサンスアカデミーが開講

同アカデミーは2006年に開講。鹿大が県や民間企業と連携して、鹿児島県の醸造や発酵を中心とする食文化の創造と食産業の発展に寄与し、地域の再生に貢献できる人材を育成している。

### ◆インフォメーションセンターがオープン

同センターは鹿大と地域社会を結ぶ大学情報の発信と交流のための拠点として、2007年に郡元キャンパス正門横にオープンした。



## 稲盛アカデミー 始動

2008年9月、工学部OBの稲盛和夫京セラ(株)名誉会長の寄附金などを基に「稲盛アカデミー棟」が建設され、同年10月から講義がスタートした。稲盛名誉会長は社会で大切なものとして「実直で誠実な人間力」を挙げており、その「人間力」を高めるための倫理、哲学などの教育科目や経営哲学・経営管理に関する教育を提供している。



稲盛アカデミー棟

## 鹿児島大学憲章の制定

2007年11月、広く社会から支持・支援される大学として鹿大の目指すべき基本的目標等を明らかにするため、従来からの大学の基本理念の核となる「鹿児島大学憲章」を制定した。大学憲章は、前文で「地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざす」ことを掲げ、教育・研究・社会貢献・大学運営の4項目から構成。教職員によるワークショップや学長諮問会議、経営協議会等からの意見を基に作成した大学憲章(案)を基に、大学ホームページ上などで学内教職員や一般市民等を対象に意見を募集し、学内諸会議での審議を経て制定した。



第4部

# 鹿児島大学の未来像

進取の気風にあふれる総合大学を目指して

## 鹿

児島大学の源は藩学造士館や医学院に遡りま  
す。若者が互いに切磋琢磨しながら勉学に打ち  
込み、進取の気風にあふれる人間形成に努めてきまし  
た。鹿児島中央駅前<sup>\*</sup>の「若き薩摩の群像」は、新しいもの  
に果敢に挑戦し、貪欲に学びながら日  
本の礎を築いてきた薩摩藩の英国留學  
生をモニュメントにしたものです。鹿児  
島大学もそうした若者を育んできた地  
域の伝統を受け継ぎ、地域とともに社  
会の発展に貢献する進取の気風にあふ  
れる総合大学をめざしています。第二  
期の中期目標・中期計画では、果敢に  
挑戦する鹿児島大学の具体策をまと  
め実行していきます。

<学長メッセージ>

## 時代を先取り、改革を果敢に挑む

吉田浩己 鹿児島大学長



進取の気風にあふれる学生を育成す  
るためには、コミュニケーション能力など  
の技能や倫理観、問題解決ができる創  
造的思考力を備え、教養に裏打ちされ  
た士力を身に付ける必要があります。そ  
れにはまず、早急にかリキラム改  
革に取り組み、教育理念に基づき、「学生  
憲章」を策定します。策定作業には学生  
にも参加してもらい、学生が自らそれ  
を規範として学生生活を送れるような  
ものになりたいと考えています。

大学院教育においては、総合大学としての利点を最  
大に活かし、横断的、普遍的、国際的な課題をテーマと  
した教育コースをつくりまします。学位取得のための教育  
コースとは別に設定することで、専門性を備えながらも  
総合力を持った人材を育てるのがねらいです。テーマは  
「島嶼」「環境」「食と健康」など。独特で素晴らしい自  
然環境を持ち、農業県で水産県でもある鹿児島という  
立地を活かしたものを考えています。

南の玄関口である鹿児島県に根ざす大学として、大  
学の国際化についても真剣に議論していきます。留學生  
が鹿児島大学で学びたいと希望し、帰国後は母国の  
リーダーとして貢献するには、やはり鹿児島大学が教  
育の質を高め、維持することが欠かせません。優秀な留  
學生が鹿児島大学に来ること、学生も良い刺激を受  
け、大学が活性化します。鹿児島大学はアジア・太平洋地  
域の中心との学術交流・教育交流を通じて、国際交流  
拠点としての機能を高め、国際的課題の解決に貢献  
し、グローバル化時代に活躍できる人材を育成します。

国立大学法人化は、大学が自主自律を達成するため  
に自ら目標を設定して改革するという姿勢を育てたと  
いう意味においてとても良い機会でした。これからも、鹿  
児島大学は時代を先取りするような改革に果敢に挑  
戦し、次代を担う若者の人材育成とともに鹿児島県  
民、国民に対する責任を果たしながら、社会全体の未  
来を切り拓いていく役割を担ってまいります。

## 社会全体の未来を切り拓く 鹿児島大学を目指す

江戸時代に始まる藩学造士館や  
鹿児島県内の高等教育機関の精神  
を受け継いで誕生した鹿児島大学。  
日本の南に位置し、アジアへの玄関口  
ともいえる鹿児島の地において、その  
教育的伝統を脈々と育んできた。

鹿児島大学は、地理的特性と教  
育的伝統を踏まえ、鹿児島大学は、  
学問の自由と多様性を堅持しつつ、  
自主自律と進取の精神を尊重し、  
地域とともに社会の発展に貢献す  
る総合大学をめざす」と大学憲章  
で謳っている。今後は、伝統を受け継  
ぎながらも鹿大だからこそできる  
教育・研究・社会貢献活動を問い直  
し、常に新しい取り組みに挑戦する  
ことを使命ととらえている。社会全  
体の未来を切り拓いていく大学を  
目指し、鹿大はこれからも前進を続  
けていく。



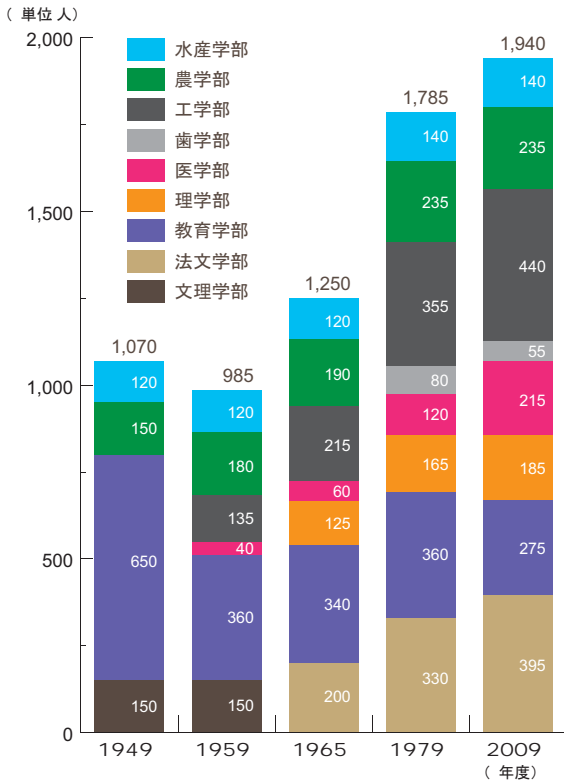
若き薩摩の群像 鹿児島中央駅東口広場

\*1865(慶応元)年、国禁に反して海外留學を果たし、学問や技術を修めた薩摩藩の英国留學生を主題に制作された銅像で、制作者は中村晋也(鹿児島大学名誉教授、文化勲章受章者)。帰国後に日本の近代化に尽力した留學生の中には森有礼や寺島宗則、鮫島尚信などの名立たる人物がいる。

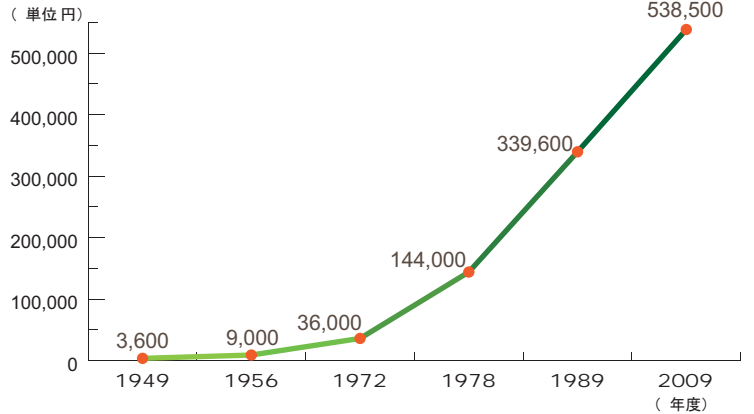


## データで見る鹿大の60年

### ● 学生定員の推移



### ● 授業料の推移



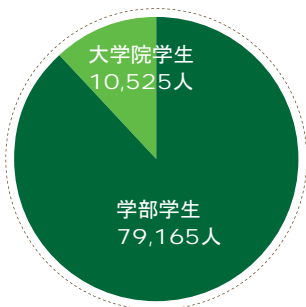
### ● 1カ月の支出の比較

\*授業料以外の学校納付金含む (単位: 千円)

	自宅	学生寮	下宿	アパート	マンション
修学費*	5.53	4.49	3.88	3.85	5.49
課外活動費	3.55	4.7	4.73	4.36	3.51
通学費	8.84	1.41	2.78	1.07	1.55
食費	9.71	22.83	18.7	23.43	25.42
住居光熱費	1.38	10.9	28.48	36.2	39.25
保健衛生費	0.77	1.74	0.88	1.86	1.7
娯楽嗜好費	11.44	13.77	12.36	12.76	14.39
その他	5.01	7.34	5.56	6.95	7.57
合計	46.23	67.18	77.37	90.48	98.88

### ● 卒業生・修了生数

(1949年度～2008年度まで)



(単位: 千円)

	自宅	学生寮	下宿	間借
修学費*	0.84	0.82	1.12	1.01
通学費	0.86	0.28	0.41	0.28
食費	1.19	4.9	5.27	5.28
住居費	0.5	0.64	2.58	2.63
保健衛生費	0.36	0.33	0.41	0.29
娯楽嗜好費	1.2	1.17	1.29	1.5
その他	0.31	0.3	0.4	0.28
合計	5.26	8.44	11.48	11.27

### ● 外国人留学生数の推移

合計	北中南アメリカ州					欧州					アフリカ州					大洋州		アジア州											エリア																	
	パラグアイ	ペルー	ブラジル	チリ	コロンビア	エルサルバドル	ジャマイカ	メキシコ	カナダ	アメリカ	英国	ブルガリア	スペイン	ドイツ	オーストリア	モリタニア	ナイジェリア	モロッコ	セネガル	タザラ	ケニア共和国	カメルーン	ガーナ	エジプト	フィジー	トンガ	オーストラリア	ブータン		ネパール	中国	台湾	韓国	ミャンマー	マレーシア	ベトナム	フィリピン	インドネシア	パキスタン	タイ	スリランカ	インドネシア				
13																																														1960年度
55 (14)		1	2	2		1	1		1	1	2					1			1				1								4	22	1	1	1		2	5		2		3	1			1970年度
271 (81)	1		2		1		1			3	1	1	3	3	1	1	1	1	5	1	2	1	4	1	1	1	2	1	5	99	7	34	9	13	5	11	11	4	4	5	23	3				2000年度

※( )内数字は国費留学生を内数で示す



# 重度重複障害児や 学習障害児の支援に 取り組む

教育学部の雲井未勲准教授は、身に障害のある子どもへの支援を研究している。重度の障害児が人の働きかけをどう受け止めているか、心拍の反応を手がかりに明らかにする研究や、発達障害児のための学習教材の開発などに取り組んでいる。



土曜サークル「ハーモニー」で草木染めに取り組む子どもたち



教育学部特別支援  
教育教員養成課程  
障害児教育専修 准教授

## 雲井 未勲

くもい みゆ / 昭和48年大阪府生まれ。平成14年東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科学校教育学専攻修了。博士(教育学)。平成14年～16年東京小児療育病院に心理職として勤務。平成16年に鹿児島大学教育学部講師に就任。18年から現職。専門は障害児心理学、障害児発達学、生理心理学。共著『LD児の漢字学習とその支援～一人ひとりの力をのばす書字教材』(北大路書房)『LD児のためのひらがな漢字支援～個別支援に生かす書字教材』(あいり出版)がある。

## 障

「障害児心理学の専門家である教育学部の雲井未勲准教授は、障害のある子どものコミュニケーション能力の発達や学習を支援するための研究を行っている。障害や障害者に対する理解を深めてもらうため、小学校での授業や、教員向けの研修会などでの講演も積極的に引き受けている。『小学校の授業で『コミュニケーションはどこにあると思う?』と質問したら、ある子どもが

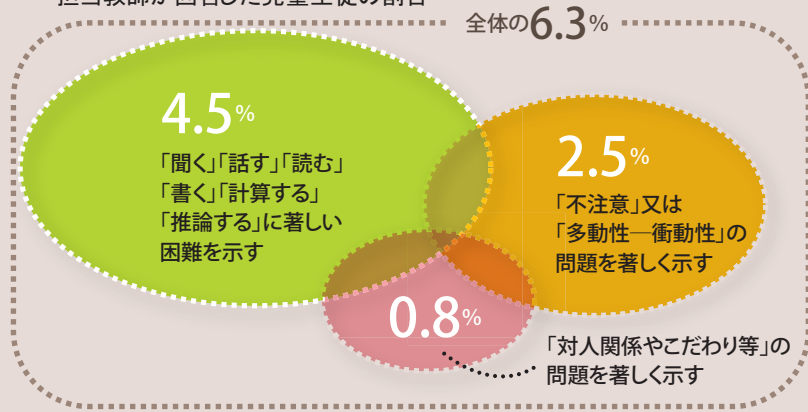
『相手と自分の間にある』と答えてくれました。障害のある無しに関わらず、人と人との『間』でコミュニケーションが成り立つことをうまく表現した答えだと思います。相手が話をしたり、合図を送ることができなくても、こちらが相手を観察し、気持ちを汲み取ることによってコミュニケーションは成り立つのです』

### 心拍によって 障害児の内面を把握

学校教育では近年、重度重複障害児の割合が増える傾向にあり、指導の充実が課題になっている。子ども達の多くは、話をしたり自分で動くことに困難があるため、何をどのように感じているか見ただけで判断することは難しい場合がある。そこで、見た目にはわからない子どもの内面を体の生理的な



( 図 ) 知的発達に遅れのないものの学習面や行動面の各領域で著しい困難を示すと担当教師が回答した児童生徒の割合



※「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」に著しい困難を示すとは、その一つあるいは複数で著しい困難を示す場合を示す。

( 2002年文部科学省 通常の学級に在籍する特別な教育支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査より )

反応からとらえる試みが行われて  
いる。

雲井准教授が注目する「生理的  
な反応」は心拍だ。心拍は、何かに  
注意を向けたときに遅くなるこ  
とがわかっている。心拍の速さを調  
べれば、子どもが周囲の働きかけ  
を積極的に受け止めているかどう  
かがわかる。雲井准教授は重度重  
複障害児に絵本の読み聞かせを  
行う授業の中で、話の区切りごと  
に、子どもの名前を呼んでから続

きを聞かせる、という実験を行っ  
た。何度か繰り返し返すと、名前を呼  
ばれた後に子どもの心拍が遅くな  
るという「期待反応」が見られるよ  
うになった。「実験から、子どもが  
名前が呼ばれた後に絵本の続き  
が始まることを理解し、それに注  
意を向けて待っていることがわか  
ります。これは『はい』と『いいえ』  
を選択するプロセスと同じ。こうし  
たやりとりの状況をつくっていく  
ことが、言葉や周囲の状況を認知  
する力、ひいてはコミュニケーション  
能力の発達につながると考えてい  
ます」と雲井准教授は説明する。

#### LD児のための 学習教材を開発

雲井准教授は、学習障害児の  
学習支援のための研究も進めて  
いる。学習障害(LD=Learning  
Disabilities)は、知的発達の遅れは  
ないが、「聞く」「話す」「読む」「書く」  
「計算する」「推論する」の基本的  
な学習能力をうちの1つ、ある  
いは複数の能力の習得・使用が著  
しく困難な状態を指す発達障害  
の一つである。例えば、LDの一つであ  
る「書字障害」では、文字は読める  
が、文字を書くとき左右が逆になっ  
たり、読めないような文字しか書  
けなかったりする。子どもによつて

障害の特徴が異なるため、それに  
合わせた指導が必要だ。「LD児の  
半分以上は親や教師から努力が足  
りないと思われる。特定の科目  
でのつまづきが他の科目にも広が  
ると、学習の遅れにつながり、無力  
感に陥る。精一杯やっているのに評  
価されない、傷つくことを避け、  
新しいことに挑戦しなくなつてし  
まう。そう考えると、LDを軽い障  
害とは言えないんです」と雲井准  
教授は話す。雲井准教授は現在、  
漢字の読み書きに障害があるLD  
児のための学習教材の開発に取り  
組んでいる。障害の特徴をパソコン  
に入力し、学習したい学年を指定  
すると、それに合った漢字の問題  
が出題されるソフトを開発中だ。

漢字の画に特定の音をあて、その  
音を聞いて漢字の書き方を練習し  
たり、ねじれながら回転する漢字  
を見てどの漢字かを当てる学習法  
などもある。

学校教育の現場でもLD児への  
支援が課題となっている。「近年、  
LD児向けの指導法を扱った本が  
多く出ていますが、方法論だけが一  
人歩きしている面があります。学  
習障害の子どもとどのように信頼  
関係を築くかということに改めて  
考えていく必要があると思います。  
子どもと教師の間に信頼関係があ

れば、子どもは失敗を怖れずに学  
ぶことができ、手の込んだ指導法  
より効果を発揮する場合もある。  
教育の現場に成果を還元するとい  
うのが社会から課せられた使命だ  
と思っています」

#### 障害児教育の現場を 学生が体験する「土曜サークル」

雲井准教授は、土曜日には「土  
曜サークル・ハーモニー」の活動を  
行っている。小学生から中学生まで  
の発達障害がある子どもたちが、  
集団活動を通して「うまくできた」  
「成功した」という気持ちを経験  
し、子どもたちに自信をつけさせ  
るのがねらいだ。雲井准教授の指  
導の下、研究室の学生たちが集団  
活動の企画立案や司会を担当し、  
障害児教育の現場を体験できる貴  
重な機会にもなっている。

「学生には、子どもの気持ちを  
理解しようと努力すること、子ど  
もの気持ちに寄り添うことを学  
んでほしい。『年生なんだからこ  
れくらいできなきゃ』ではなく、努  
力したことは認めてあげて安心感  
を与えることが大事。教育にして  
も福祉にしても、相手に安心感を  
与えることを前提に成り立つ仕事  
だということを忘れないでほしい  
ですね」

#### \* 発達障害

学習障害(LD)、注意欠陥・多動性障害(ADHD)、高機能自閉症など  
の総称。全体的な発達は年齢相応でありながら、読み書きや社会性な  
どの一部に限って、強い困難が現れる。脳の機能の偏りが原因と推測  
されているが、詳細はまだ明らかでない。



自称「まち歩き  
の吟遊詩人」。  
面白い場所だけを案内します。

アラムナイ追跡隊

interview

## Ryutaro HIGASHIKAWA

事務所がある鹿児島市名山町にて。今なお戦後の面影が残る。「こんな路地が残っているのは鹿児島ではここだけ 東川さん」



かこしま探検の会  
代表理事

東川 隆太郎さん

● profile

1972年鹿児島市生まれ。鹿児島市立鹿児島玉龍高等学校卒業。98年鹿児島大学理学部地学科卒業。2001年特定非営利活動法人(NPO法人)まちづくり地域フォーラム かこしま探検の会の設立に関わる。07年から現職。まち歩きの実施や、地域の観光マップ、パンフレットの企画立案を行う。県内外での観光関係者向けの講座ガイド養成講座の講師、シンポジウムのパネリストなどとしても活躍。2005年からNPO法人桜島ミュージアム理事、NPO法人さつま理事も務める。連載(『かこしま歴史まち歩き』『地域経済情報』鹿児島地域経済研究所発行)、『りゅうたろう的続世間遺産』『南日本新聞』、共著(『日本を変えた薩摩おごじょ 天璋院篤姫 新薩摩学シリーズ6』鹿児島純心女子大学国際文化研究センター)、『目で見える日置 いちき串木野の100年』(郷土出版社、2007年)がある。著書『世間遺産』株式会社シーナークスを近日出版予定。

※ アラムナイとは英語で同窓生のこと。各界で活躍する鹿児島大学の卒業生や留学生などのユニークな活動を紹介します。





小学生のころから愛読している  
「県史シリーズ46 鹿児島県の歴史」  
(原口虎雄著、山川出版社)

## 地域の面白さ・価値を伝える 「まち歩き」の吟遊詩人\*

「かごしま探検の会」では、鹿児島の面白さ・価値を多くの人に知ってほしいと、「まち歩き」を中心に活動しています。自称「まち歩き」の吟遊詩人」。道すがらにある物の価値や意味、蘊蓄を参加者に語りながら歩きます。地域に関心を持つ人の裾野を広げたいと思つてやっていますから、僕が面白いと感じたところしか行かないんです。

まち歩きは今でこそ観光やまちづくりの手段の一つですが、会の設立当時はまち歩きなんてやるところは鹿児島ではうちだけ。人がやらないことをしたいし、そこに面白さを見出すのが僕たちのスタンスです。先日は「鹿児島の団地めぐり」というテーマでまち歩きをしましたよ。

幅広い世代に地域の面白さを伝えようと、「世間遺産」の活動もしています。「世間遺産」では「どこか

奥深く、どこか懐かしく、どこかな？」という条件を満たしたものを僕が勝手に認定します。文化財には登録されな



学生時代、加治木町日木山の田の神と同じポーズで

くても「何かいいよね」と感じるものを皆で共有して、人々が地元文化遺産や古い物語に興味を持ち、「これはうちの宝だ」「うちの面白いところはここだ」と納得して言えるようになってほしい。地域の良さを見つけてきつかけになればいいなと思つています。

## 原口泉先生に憧れた 歴史好きの少年

実は、今やっていることは子どものときから全く変わっていないんです。小学生の頃から歴史が大好きで史跡めぐりに熱中していました。ある日、NHKの番組「かごしま歴史散歩」で解説する原口泉先生(鹿児島大学法文学部教授)を見て、「外国でも県外でもなく、僕らの足下にこんな面白いことがあるんだ」

と衝撃を受けて。原口先生のとこで勉強したくて「大学は鹿大」と決めていましたね。ただ、高校時代に史跡めぐりやバンド活動に力を入れすぎて、3浪して。法文学部志望だったのですが、小学生の頃から温泉好きだったし、好きだった宮沢賢治が地質学者だったこともあり、「地質学もいいな」と理学部地学科に入りました。

## 斉彬とトリュフォーは つながっている

入学後はかえって勉強をするようになりましたね。授業は真面目に受けながら、原口先生や下野敏見先生(元鹿児島大学法文学部教授)の演習に参加したり、先生方の方々と金魚のフンのように行くとこに回って。指導教官の大木公彦先生(鹿児島大学総合研究博物館館長)は「宮沢賢治の会」を主宰されていて、僕らの選択は間違っていないかと思われました。この3人の先生方との出会いは大きかった。科学的方法を学びながら、歴史や民俗学、フィールドワークとバランスよく勉強できて。地質が生活に及ぼす影響は大きいですし、鹿児島と火山や温泉は切り離せませんから。

大学時代は「鹿児島歴史民俗研究会」を立ち上げて史跡めぐりも



まち歩きでガイドをする東川さん(右端)。  
鹿児島弁を交えた語り口が参加者に人気だ

やりました。でも、「この名前では女の子にモテない。青春には恋愛も必要だ」ということで、「鹿大ヌーヴェルヴァーグ」などと名前を変えて文学やフランス映画を語り合うということもしました。映画好きが高じてローマのチネチッタやフランスのトリュフォー\*1の墓にも行ったんですよ。僕が面白いと思うことをやるという意味では史跡めぐりも映画と同じ。僕の中で島津斉彬とトリュフォーはつながっているんです(笑)。

若いと得をすることが多いから、

学生時代はいろんな大人と接したほうがいいですよ。本は貸してくれるし、飯も食わせてくれる(笑)。大学では先生方が毎回90分間も話を聞かせてくれる。若者はそういう重みをもう少し受け止めてもいいんじゃないかなあ。

\*1 フランソワトリュフォー(1932~1984)はヌーヴェルヴァーグを代表するフランスの映画監督。





輝  
鹿大生  
vol. 10  
Terada Nanami

寺田菜々海さん

法学部人文学科  
メディアと現代文化コース3年  
〔鹿児島県出身〕  
鹿児島県立屋久島高等学校卒業



東京で焼酎のPRをする寺田さん

手を挙げるのは勇気がいりますが、  
思い切って飛び込めば新しい世界が待っています。

寺田菜々海さんは平成20年11月から1年間、第4代「かごしま親善大使」を務めた。高校生のとき、親善大使の新聞記事を見た父親から勧められたのからアナウンサーになったかった。その夢の一番の理解者である父に「大学生になったら何にでも手を挙げて挑戦してみたら？」と言われてから、ずっと憧れてきました。審査を経て見事、親善大使となり、知事や市長をはじめ観光関係者とともに、全国で鹿

児島のPR活動を行ってきた。学生ながら出張で多忙な毎日を通じて、親しみやすい親善大使を目指してきました。学生生活との両立は大変でしたが、様々な土地を見ることができて勉強になりました。

寺田さんは高校生のとき、人文学科の「メディアと現代文化コース」でマスコミについて学べると知り、鹿大に入学。2年次からはマスコミ論を受講している。今年、午前には高校野球の取材を行い、午後には原稿を書くという記者さながらの実習にも取り組んだ。「毎週の授業がとても楽しみ。マスコミで働く方々とお話する機会もあり、業界の大変な面も知ることができました。新聞を読むのは苦手だったので、制作の裏側、記事を書く楽しさを知ってから新聞を読むのが面白いんです」

これから就職活動を本格的に始める寺田さん。毎週、福岡のアナウンススクールに通い、テレビ局でのアルバイトもしている。「学生時代はいろんなことに取り組み、自分が成長できる時間だと思っています。新しい世界に飛び込まなければ、人との出会いもなかったし、いろんなチャンスを得ることもできなかった。これからも様々なことに挑戦していきたいと思っています」

私の座右の銘 ナナイロコトバ

「やさしきこと、ひたむきなこと、謙虚なこと。すべての人に感謝」

「やさしきこと～」は中学校の先生が卒業アルバムに書いてくださった言葉。自分に足りないものだし、マスコミの世界を目指す人間としての戒めの気持ちでもあります。普段、辛いことも楽しんでやりたいと心がけています。そのためには常に周りに感謝することを忘れないことが大切だと思っています。



大学祭でサークルの仲間たちと 前列中央が寺田さん

\*1 かごしま親善大使  
鹿児島市から委嘱され、国内や海外のイベントで鹿児島の紹介や観光客の誘致、宣伝などの観光PRを行う。任期は1年間。

\*2 マスコミ論  
法学部と地元マスコミ13社が協力して平成17年に開設された科目で、現役記者やディレクターが講師を務める。講義のほか、新聞社テレビ局での現場見学、実際の取材、原稿作成などの実習もある。



古墳時代の土器。南九州独特の形をした甕（左）と大壺（上）が特徴。郡元キャンパス出土品



弥生時代の木製品（上から）皿、建材、農具として使われた。郡元キャンパス出土品



農学部の前身・鹿児島高等農林学校の寮や昭和30年ごろの農学部で使われていた磁器。高等農林時代のものには「鹿高農対岳寮」の文字が見える。郡元キャンパス出土品

### 鹿大キャンパスに眠る文化財の調査・研究拠点

埋蔵文化財調査室は、鹿児島大学の郡元キャンパス、桜ヶ丘キャンパス、唐湊学生寮、農学部附属入来牧場の4カ所に眠る文化財を専門に調査・研究する施設で、昭和60年6月に設置されました。昭和50年に、教養部校舎の増築工事現場から土器片を発見した鹿大生が大学側に文化財の保護を求めたことがきっかけとされています。

郡元キャンパスは平野部にあり、弥生時代の水田遺構、古墳時代の住居跡やそこで生活していた人々の使用した土器などが見つかっています。桜ヶ丘キャンパスや唐湊学生寮は高台に位置しており、火山灰層に覆われていたことから、旧石器時代から縄文時代にかけての遺物や遺構が良好な状態で残っています。山間部にある入来牧場では、縄文時代の遺物が採集されています。学生は共通教育科目などの講義を通して、こうしたキャンパス内の遺跡について学ぶことができます。また、総合研究博物館常設展示室にも展示されており、一般の人々も発掘された土器などを間近に見ることが出来ます。

調査室の主な業務として、鹿大構内の施設整備計画に伴う発掘調査、試掘調査、立会調査、調査に関する事務や調整、出土品の整理作業と管理、報告書などの作成・発行があります。遺跡の全容が明らかになる調査終盤には遺跡説明会を開催し、調査結果を一般に公開。子どもからお年寄りまでが臨場感あふれる発掘の現場を見ることができ、条件によっては発掘体験をすることもできます。

今後は、学外に埋蔵文化財の重要性をPRして理解を求めるとともに、公開講座や遺跡見学会を通してさらに文化財の重要性を広く地域に広報していくことを計画しています。



遺跡説明会の様子

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24

TEL 099-285-7270 FAX 099-285-7271

E-mail maibun@kuas.kagoshima-u.ac.jp

URL <http://maibun.knit.kagoshima-u.ac.jp/index.html>



石鎌 左端と細石刃。  
石鎌は縄文時代、細石刃は旧石器時代のもの。  
桜ヶ丘キャンパス出土品



## ▶ 皆既日食観測航海を実施

水産学部および理工学研究科では、7月22日の今世紀最大の皆既日食を観測するため、水産学部附属練習船かしま丸による洋上観測航海を実施しました。

これは、水産学部 理工学研究科の学際フィールド 教育研究事業として行われたもので、他大学、研究機関等の研究者や学生のほか、高校生5名を含む計69名が乗船。各機関の研究者らは、皆既日食時の太陽を取り巻く高温の大気「コロナ」やダストリングの赤外観測、太陽の微細構造を捉える電波観測、海上気象変動観測を行いました。皆既日食中は雲に覆われ、コロナやダストリングなどの科学観測はできませんでしたが、電波観測と海上気象観測データの収集などを行いました。



白色光コロナ観測



太陽ダストリング観測

## ▶ 本学プロジェクトがJSTの理数系教員養成拠点構築事業に採択

鹿児島大学の「実践的CST（コア・サイエンス・ティーチャー・理数系教員）養成スクールと活動拠点構築プロジェクト」が、JST（独立行政法人科学技術振興機構）の平成21年度理数系教員養成拠点構築事業に採択されました。

この事業は、大学と教育委員会が連携し、理数教育における指導力向上を図るもので、理工学研究科、農学研究科、水産学研究科、教育学研究科が連携し「科学する楽しみ」を小中学生に伝えることができる理数系教員を養成します。また、現役の教員も参加可能です。

## ▶ 理工学研究科 隅田教授がインフルエンザウイルスの超高感度検出法を開発

理工学研究科の隅田泰生教授（専門：糖鎖生化学、ナノバイオテクノロジー）が、微量のインフルエンザウイルスを濃縮して検出する方法を開発し、従来法の約1000倍のウイルスの検出感度を得ることに成功しました。

隅田教授は、この検出法を発展させ、唾液中のウイルスを20分程度で検査する超高感度・超高速ウイルス検出システムを兵庫県のメーカーと共同開発し、医療機関等での新型インフルエンザ対策として提案する予定です。

## ▶ 工学部生が米国のプログラムコンテストで学生賞を受賞

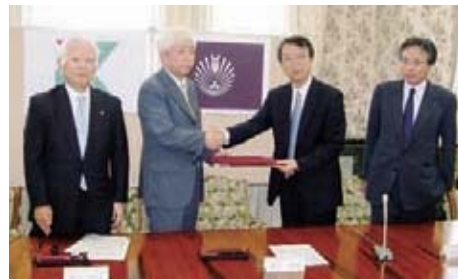
米国サン・マイクロシステムズ主催のプログラム・コンテスト“JavaFX Coding Challenge”の学生部門において、工学部情報工学科4年生の濱崎一樹さんが、学生賞「Student Winners」(世界中で3名)に選ばれました。

## ▶ 法科大学院、九大と教育連携に関する協定を締結

鹿児島大学法科大学院は、九州大学法科大学院と連携して相互の学生を受け入れる「滞在型特別聴講学生制度」を設けることとなり、7月23日に連携協定を締結しました。

この制度は、受入大学院において、3年次の前期に滞在型の特別聴講学生として受け入れ、所定の授業科目を履修できるもの。学生間交流の発展と教員間の相互交流の強化により質の高い法曹の養成を目指しています。

平成22年1月から、本学の学生が、3年次に進学した段階で半年もしくは1年間、滞在型特別聴講学生として九大のキャンパスに通学し、講義の受講が可能になります。



九州大学での協定締結式の様子

## ▶ 「公共建築物の低炭素化を目指す鹿児島プロジェクト」を開始

鹿児島大学と鹿児島市は、CO<sub>2</sub>排出の少ない省エネルギー型の暮らしを快適に行うことを目指し「公共建築物の低炭素化を目指す鹿児島プロジェクト」を立ち上げた。

その第一弾として9月には3企業と共同し市内の小学校等で光触媒複合塗料を用いた屋上・壁面塗装、水噴霧冷却システム「クールミスト」を用いた環境改善、光熱フィルターを用いた日射光の低減の技術について実証実験を行いました。



## 学生の目的意識を高め、若手教員が研究に専念できる環境づくりが大切です。

放送大学鹿児島学習センター所長 竹田 靖史氏



### ■ 学生の目を輝かせるような環境づくりを

鹿児島大学を退職後、平成20年から放送大学の鹿児島学習センターの所長を務めています。放送大学の学生は、目的意識がはっきりとしており、目の輝きといたら素晴らしいものです。授業中にも質問が飛び交い、受講生は授業が終わっても先生をつかまえて離さない。

それに比べると、鹿大の学生は目の輝きが足りないような気がします。ただ、そんな学生たちの目が一際輝く時期というのがあるんですよ。それは卒業論文に取り組んでいるときです。一つのテーマに沿って研究し、それを論文にまとめ、人前で発表する。学生たちはしっかりと目標があれば、それに向かって頑張るものです。目の輝きが足りないのは、何を学びたいか、何を知りたいかという目標がないからだと思います。目的意識を明確にさせるためにも、入学直後のキャリア教育を必修としてほしいというのが第一の提言です。

現在開講されている「キャリアデザイン」は、学生が将来について考えることのできる良い機会ですが、選択科目で定員が限られています。1年生全員が受けられるようなものになればもっといいのでは。目標を持って目を輝かせた鹿大生1万1千人が鹿児島の中で活動すれば、鹿児島にとって大きな力になるし、地元の人や高校生へのアピールにもなる。学生が生き生きとする環境づくりをお願いしたいですね。

### ■ 若い教員が研究に専念できる環境を

活気に満ちあふれた学生を育てるには、先生方にそれなりの努力が必要です。大学とは研究を通して学生の教育をする場。教員が一生懸命に研究に取り組む姿を見て、学生たちも専門分野に憧れを抱き、やる気を出し、目が輝いてき

ます。そこで、ぜひ若い先生方に予算を重点配分し、研究に専念できる時間を作ってあげてほしいと思います。研究実績があつてこそ、学生の教育もできるし、外部資金も獲得でき、社会貢献にもつながる。若いうちは大学運営に関わる仕事は免除し、十分に研究分野で実績を積める環境づくりをしてほしいというのが第二の提言です。海外での研究やシンポジウムなどへの参加を通して、先生方には外へどんどん出てほしい。そこで得られた人脈や情報が財産となります。自らの行動を起こす、先生方の意識改革も大切です。

### ■ 戦略性をもった取り組みを

法人化以降、鹿大は地域に根ざす大学として、地域に目を向けてきました。焼酎学講座や稲盛アカデミーなど素晴らしい取り組みがたくさんあります。今後はこれらに続くものを企画してほしい。それが第三の提言です。鹿児島には素材がたくさんありますし、良いアイデアもある。良い考えを思いついたら、やらない理由を考えるのではなく、難しくても何とか工夫し、実現していくという姿勢がほしい。個々の取り組みをそれだけで終わらせず、戦略性をもって実現してほしいですね。

ただ、やすひと／昭和16年大阪府生まれ。昭和41年大阪大学工学研究科修了。昭和42年鹿児島大学農学部に着任。平成6年同大農学部教授就任。平成16年から19年にかけて同大研究社会連携担当理事兼副学長。平成19年同大名誉教授の称号を授与される。同年、アメリカ穀物化学者協会が基礎澱粉化学分野に貢献した研究者に贈る「アルスベルグ・フレンチ・ショック賞」を受賞。平成20年4月から現職。日本応用糖質科学会会長、鹿児島県工業倶楽部理事。鹿児島大学外部評価委員会座長も務める。

鹿大なんでも情報版  
Kagoshima University Information

## ▶ 「かごしま教養プログラム」ど「フィールドスクール」を実施

鹿児島大学をはじめとする県内の大学、短期大学、高等専門学校は、平成20年度文部科学省戦略的連携支援事業「鹿児島はひとつのキャンパス」の一環である2プログラムを8月22日から6日間実施し、10機関の学生約110名（鹿児島大学からは39名）が参加しました。

「かごしま教養プログラム」は国立大隅青少年自然の家（鹿屋市）で開催され、各大学等で実施されている鹿児島を素材とした教養教育をベースに、新しくデザインされた共同合宿授業が行われました。また「かごしまフィールドスクール」は県内各地で実施され、学生が当該地域の魅力やその抱える課題等について実地で詳しく調査し、活性化策等についてグループ討論しました。



かごしまフィールドスクール聞き取り調査の様子



第5回 探訪 かごしま



## 桜島火山・南岳の最近の噴火活動

鹿児島大学大学院理工学研究科 小林哲夫 教授

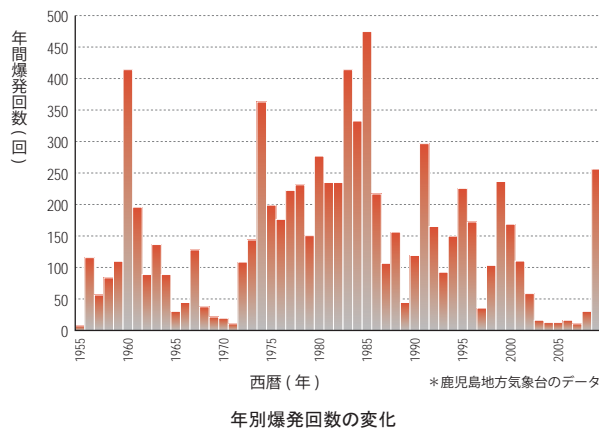
桜島火山の南岳は、1955年以降、山頂火口での爆発的な噴火活動を続けています。時に激しい爆発音と空振を伴い、噴煙は数千メートルまで上昇し、火山弾を放出します。このような噴火をブルカノ式噴火と言います。グラフに示すように、1960年、1985年は非常に活動的でしたが、2003年以降、ほぼ沈静化状態が続いていました。しかし今年になってから急に活発化しています。1955年から現在(2009年9月30日現在)までの爆発総数は7900回をこえました。

このように長期にわたる噴火活動は非常に稀な現象と思われるでしょうが、南岳の誕生から3000年間は同じような爆発的な噴火が頻発しました。現在は山腹の昭和火口が主に活動しており、もし噴火様式が溶岩の流出を伴う活動に変化すれば、新しい火山体が出現するかもしれません。なお小噴火を



2009年4月9日、午後3時すぎの噴火。大学構内にも多量の降灰がありました

繰り返していると大爆発にならないとよく言われますが、必ずしも正しくはありません。桜島の地下ではマグマが蓄積され続けており、遠くない将来に、大正噴火クラスの大噴火が発生するのではないかと懸念されています。



### ● 職員の給与水準等について

本学の役員報酬 職員給与水準(平成20年度)等について、  
本学ホームページで公表しています。  
<http://hh.kuas.kagoshima-u.ac.jp/jkoukai/johokoukai.htm#jyohoteikyo>

お知らせ

### ● 「鹿児島環境学プロジェクト」での成果をまとめた市販本を出版しました

大学憲章に基づくプロジェクト事業の一環として、  
昨年10月に立ち上げ「鹿児島環境学」プロジェクトの成果の第一弾として「鹿児島環境学I」を刊行しました。



〈表紙〉

●桜島と郡元キャンパス  
鹿児島湾に浮かぶ桜島は、今なお活発に噴火を繰り返す活火山。郡元キャンパスのある市街地からその姿を望めるほど、市街地に近接している。植生や動物の生態などに特徴があり、その噴火の歴史は鹿児島市の歴史につながる。様々な視点から教育・研究に活用されている山である。

広報担当学長補佐  
鈴木 廣志

今後、鹿大が100周年、200周年とその歴史を刻んで行く中で、この「進取の気風」を鹿大ブランドとしていかにして伝えながら、その教育的伝統を踏まえ新たな取組に挑戦していくか、今がそれを考える上で良い時期だと思えます。

編集を進めるにつれて感じたのは、島津家の先見性でした。藩学「造士館」を創設して藩の文化発展の礎を築いた重豪、造士館改革により維新期の原動力となった人材の輩出につなげた斉彬、その再興を願って七高造士館設置に尽力した忠義・忠重。彼らが「造士館」を通して「進取の気風」を脈々と伝えてきた流れが読み取れます。

鹿大ジャーナル182号は、創立60周年を記念して特集を組みました。大学60年の歩みをまとめるとともに、特に力を注いだのが、本学がめざしている「進取の気風」にあふれる「総合大学」の源流を探ることでした。

### 編集後記